

《大学》

芝浦工業大学

【社会の諸相を教材とした実践的就業力育成】

取組の概要【1ページ以内】

1. 産学連携による就業力育成科目とその教育体制の整備・強化

- ✓ 専門科目の動機付け・理解度向上、および人間力育成科目である、本学独自の工学リベラルアーツ教育科目を、就業力育成の効果が上がるようPDCA化して改善する。
- ✓ 産業界での人材育成教育のノウハウを導入し、コミュニケーションスキル育成教育を開発実施する。また、この教育を産業界の講師と共同実施することで、担当教員にコミュニケーション教育の教育手法を習得させ、教育体制を整備する。
- ✓ 知財、企業論、ビジネスモデル等の実学的専門教育を全学的に展開する。

2. 進路を自ら選べる力を育成するキャリア教育科目の整備・強化

自分のキャリアデザイン構築能力を育成する科目を全学的に展開する。

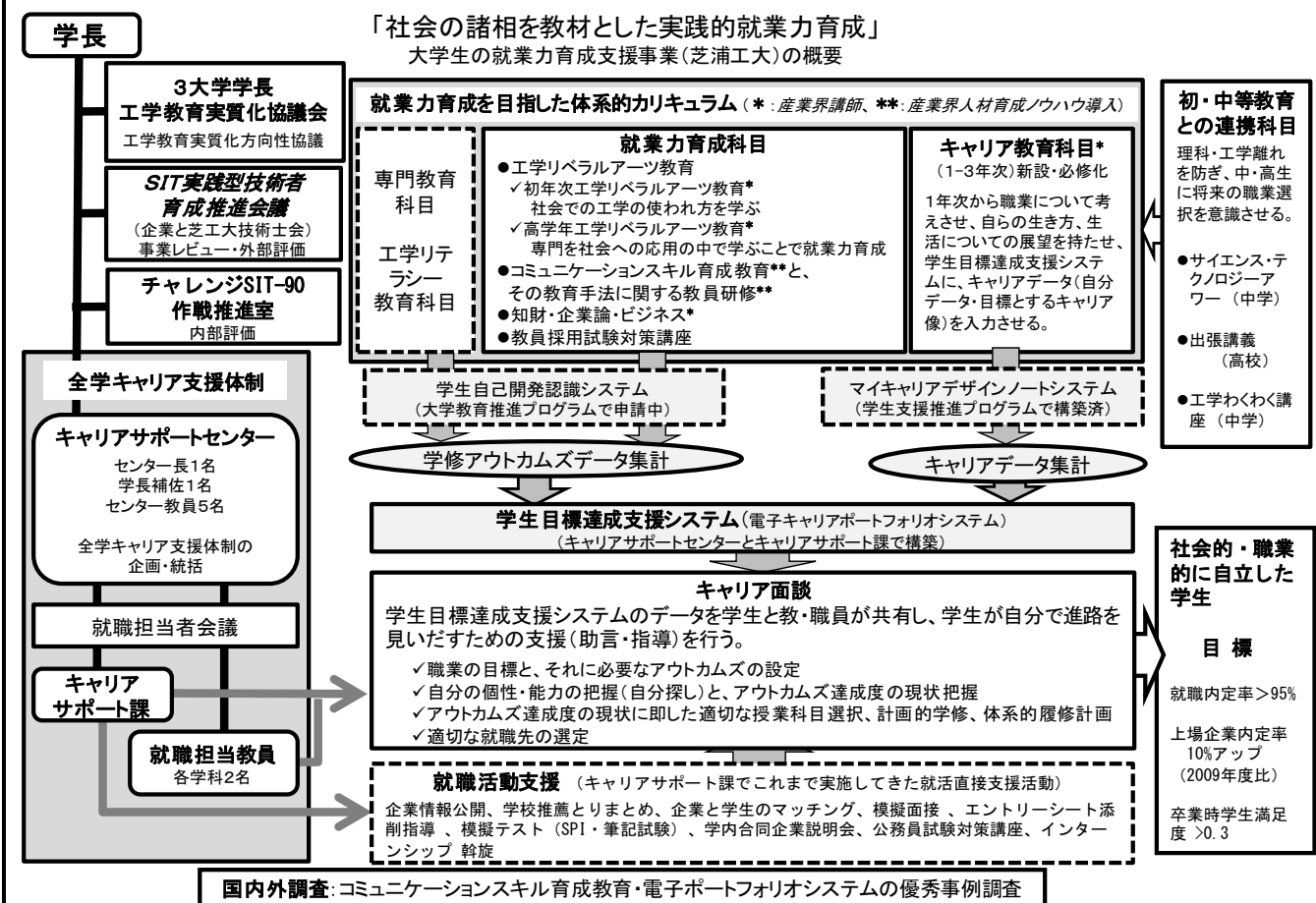
3. 学生目標達成支援システムの構築と、これを用いたキャリア面談

学修アウトカムズデータとキャリアデータを統合して、個人ごとに参照できるシステムを構築し、学生と教職員がこれらを参照・共有しながらキャリア面談を毎年学生全員に行い、学生が自分で進路を見いだすための指導・相談・助言を行う。

4. 教学部門と事務部門の有機的な連携による全学キャリア支援体制の構築・運用

全学キャリア支援体制はキャリアサポートセンターが統括し、キャリアサポート課と各学科就職担当教員が実務を担当する。両者の有機的連携を図るため、全学生に両者がキャリア面談を行い、学生目標達成支援システムを介して有機的連携を図る。

以上の事業により、就職内定率 95%以上、上場企業内定率 10%上昇、卒業時満足度調査の「進路・就職について」の満足度数値を 0.3（過去最高値）以上、を実現する。



《大学》

昭和女子大学

【夢を実現するキャリアデザイン力の育成】

取組の概要

本取組は、学生自らによるキャリアデザイン形成の視点から、専門教育・一般教養・キャリア科目群を関連づけ、企業等と協働する課題解決型コミュニティサービスと社会人女性メンターによるアドバイスを加えて教育課程を体系化し、「学修・実践・気づき・応用・定着」の学習サイクルの確立を行い、学生の人間的成長を育み、就業力を高める全学的な教育改革である。

初年次には全学生必修のコミュニケーション・スキル科目を開講し、学生に生涯役立つキャリアデザイン力形成への意識を促しながら、大学でどのような力をどう高めるかを考えさせる。クラスアドバイザーが積極的にかかわり、学生の主体性を導き出しながら、将来の夢と大学での学修が結びつくよう助言・指導する。

「問題を発見し目標を設定する力」「一歩踏み出して行動する力」等、本学が就業力の達成目標とする「夢を実現する7つの力」の育成に有効な講座をキャリア科目として配し、専門教育科目と関連づけて学部教育のカリキュラムに体系的に配置する。学生はコミュニケーション力や問題発見力、自己理解や行動力といった基礎的能力を磨き、自分の個性や能力を把握しながら専門学修に取り組むことになる。

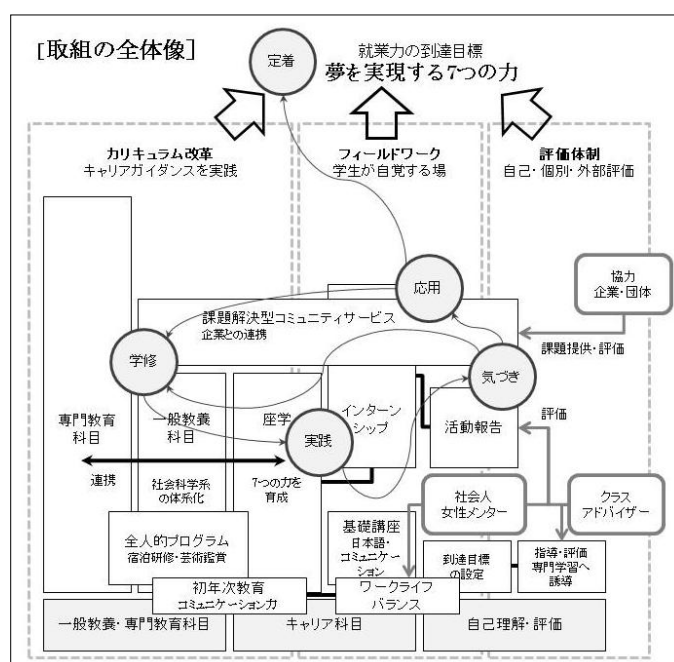
また、宿泊研修や教養講座等、本学伝統の全人的教育プログラムを検証・評価し、大学全体のキャリアガイダンスの中心に位置づける。就業力の視点に立ち、各プログラムの教育目的を明確に示し、学生が目標を意識して体験・評価を繰り返すことで、現代的ニーズに対応する効果的なプログラムへと発展させる。

これに加えて、企業等と連携した新たなコミュニティサービスを開発する。学生が身につけた就業力と専門知識を総合し、達成レベルを自覚して実際の課題に取り組み、具体的な解決策を提案する。企業等からの評価を得ることで、能力と成長への気づきや自信、一歩前へ出る大切さを学習して意識や意欲の向上へとつなげていく。

本取組で学生を支援するメンターとして、ロールモデルとなる社会人女性を学内に配置する。身近な女性相談者が助言することで、学生にワークライフバランスや生き方への基本的な展望を持たせる。女性が能力を発揮し自分らしく生きるには、社会の様々な困難と向き合い解決する意欲が必要となる。在学中に様々な社会人と接し、人生を自ら切り拓くのに必要な就業力とは何かを考え、意識や意欲を持って取り組むよう学生を導く。

本取組の成果は、学生の成長や教育効果を数値的に検証する方法を確立して評価する。

また、企業関係者等による外部委員会の講評を得て継続的な取組に発展させ、大学カリキュラムと学生指導に就業力の視点を確実に定着させる。



《大学》

女子美術大学

【職業的自立と美大の就業カリテラシーの養成】

I. 本プログラムの背景

1. 職業的自立を巡る社会的ニーズ…アート&デザインへの要請

今日の世界には、紛争、貧困、環境、人権問題等の解決困難な問題があり、これらの問題解決に向け**持続可能な社会**を目指しモデルを提案すると共に、ビジネスとして起業し貢献する**社会問題解決型人材**を育成する時代を迎えている。アートは表現することが本質であり、正に**アートとは生きる力**である。しかもアート&デザインには様々な社会の課題を解決し変革する力がある。本学が手掛けて来た学生主体のプロジェクトでは問題解決型のチームが多く、地域の問題からやがて社会全体に視野を広げ、起業を志し社会問題解決に立ち向かう学生達が生まれて来ている。アートの融合力は幅広い対応力のある人材を生み出している。

2. 本学の人材養成目標…人材養成と協働連携

本プログラムで、学生は正確な他者理解による受容力の強化を基礎に、各企業やNPO、行政・教育機関、各種の施設においてアート&デザインの**コラボレーション（協働）**を実践する。学生は企業等の第一線の実務家やデザイナー、ギャラリスト等と一緒に活動することにより、実践的職業理解とその認識力を体験的に学習する。このことから就業への共感的理解と自らの社会参画に関するニーズ把握、社会での障壁や**課題を統合し、探求する力**を備えた**社会問題解決型人材**を、従来の産業型人材に加えて育成する。

II. 本プログラムの基幹構造

1. **本取組の目的**…本取組で学生は企業等とのコラボレーションにより、教育機関や各種施設等での教育プログラムを体験し社会性獲得を行うと共に、学生自身がアート制作や展覧会、コンペ等へ作品応募を行い、自らプロセスマネジメントを実行する。また、本取組は、国内・外の企業社会等での職業的自立をテーマとし、国際交流協定校や海外の同窓会支部との協働体制を取るシステムである。

2. **職業的自立とe-コミュニティの形成**（新規システム）…本学は、キャリア形成支援を目的に、平成20年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」支援のもと、学生の学習を主体に「学習ポートフォリオ」を、電子<キャリアポートフォリオ>へと発展させてきた。今回は、従来の取組基盤を明らかに発展させ、SNS（ソーシャルネットワーク）を下に、大学が企業や自治体と協働し、学生の双方向型学習を可能とする「e-コミュニティ」を形成し、学生の**職業的自立**に向け、**メンター**である卒業生、教職員との豊かな交流を促すことを目的として、実践型体験学習の強化を行い就業力育成を支援する。

3. **教育の目的**…本取組で学生は、専門教育、基礎教養、初年次教育の中で展開される実社会へのアクセスにより、キャリアデザイン等の知識獲得や社会問題解決への契機として、女性の子育てと仕事の両立（**ワークライフバランス**）等への認識力を高め、多様な活動を展開する。学生達の活動実践により、学生自身のデザインやアートの学習が社会と融合し、**プレゼンテーション**などの**〈就業力リテラシー〉**形成を促進する。社会の現場の第一線に学生の就業力養成の場を創出することにより、学生自身が自らの展開力、応用力を高め、**学士力を向上**させる。さらに、相模原市、杉並区域等を就業力の課題と結びつけたアート&デザイン活動のフィールド実習の場として活用することを通し幅広い学びを保証する。

4. 職業的自立とアートでの発信力強化教育プログラム

履修プロセスは、学生による問題解決や社会変革のための「**アートフィールド創出プログラム**」というコンセプトに基づき、各学科を超えた、アート&デザインの学生達の《実践的フィールド》の構築を基本目的として編成される。平成21年度より試行、22年度よりカリキュラムに位置付ける「コア科目」と教養基礎理論・関連演習科目に加え、共通専門科目を主体に学生が活動するPBL（project based learning）型、チーム**実践型体験学習**等により構成される。これにより授業+授業外の現地での実践的学習時間が確保され**単位の実質化**が行われる。

○**コア科目**…教育課程開発から「サービス・ラーニング」等の形態をとり「プレゼンテーション概論」に加え、「プレゼンテーション技法演習」等をコア科目とし共通専門科目に位置付けている。

○**実践型プログラム**…講義、演習に加え、ワークショップ、コラボレーション、プロジェクト等表現そのものを主軸とする実践型教育を行う。

《大学》

白百合女子大学

【文学部における国際的就業力育成事業】

取組の概要【1ページ以内】

【趣旨】

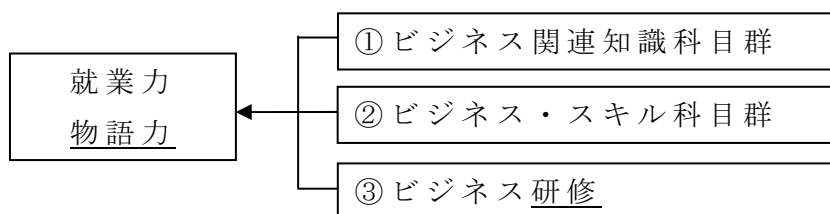
白百合グローバル・ビジネス・プログラム（以下「SGBP」）は、全学生対象の就業力育成教育プログラムである。SGBPの主たる目的は、文学部の専門教育において涵養する力の一つである「物語力」を基盤とした、グローバル化するビジネスの現場に対応できる優れた職業人の育成にある。つまり、SGBPは生涯にわたり自立した社会人・職業人、そして学習者として有意義な人生を送ることができるよう、一人ひとりの学生が確固たる就業意識を持ち、主体的に自らのキャリア・デザインを行うのを支援するものである。

【教育内容】

SGBPのカリキュラムは、

①国内外の最前線で活躍する企業人による日本語や英語での講義とビジネス知識科目
②情報収集から情報発信にいたる様々なビジネス・スキル養成科目
③国内外の企業での基礎研修（1年次）と実践研修（2，3年次）及びインターンシップの3つの柱からなっている。また、①ビジネス関連知識、②ビジネス・スキル、③ビジネス実践研修を、いずれも英語でも習得できるように、海外ビジネス研修を英語圏の教育機関で開講し、グローバルなビジネス・シーンに対応した人材の育成を行う。

SGBPの大きな特徴は2つある。第一は、文学部の単科大学という本学の特性を活かし、①ビジネス関連知識、②ビジネス・スキル、③ビジネス実践研修という3つの柱を統合するものとして「物語力」という概念を想定する点である。ここでいう「物語力」とは、単にメディア・コンテンツとしての（古典）文学の応用や二次創作をする力ではなく、商品開発、マネジメント、マーケティングなどビジネスの様々な場面でも活用される「実践において物語を構築、解釈、展開する力」である。また、自らのキャリア・デザインを構想する際に有用な歴史感覚を持った自己認識力、他者共感力を総合した力でもある。



第二は、4年次後期に必修科目として開講する「ビジネス実践演習」である。この演習では、学生一人ひとりが大学での4年間の専門課程での学びと就業力育成教育の振り返り（リフレクション）を行い、大学でのすべての学修を就業の視点から有機的に統合することで、卒業後に始まる自立した社会人・職業人として新生活に備えるものである。

【教育組織】

SGBP開設にあたり、キャリア支援課と教務課という既存の2つの事務組織の一層の有機的連携を可能とする組織として、SGBPの教育・研修を支える組織である「グローバル・ビジネス・プログラム支援センター」を設置する。さらに、文学部における専門教育・研究とSGBPにおける就業力育成教育とを結ぶものとして、物語・物語力のビジネスにおける応用を研究・教育テーマとする「応用文学研究所」（仮称）を設置する。「応用文学研究所」（仮称）が提供する物語力に関する授業を通して、文学部での4年間の専門教育と就業力育成教育とを有機的に融合させた総合的な学修を目指す。

《大学》

成城大学

【成城大学就業力育成・認定プログラム】

取組の概要【1ページ以内】

- 1. 本取組の目的** 本学は基本的な目標として「未来社会へ貢献する大学」を掲げている。この取組の目的は、仕事つまり働くことを通じて**未来社会に貢献する**人材を育成することである。

本学学生は、誠実で学ぶことに対して真面目であり、就業力にとって不可欠な人間関係構築力については優れているという評価の一方で、行動力あるいは主体的な取組への姿勢についてはやや物足りないという評価がある。本取組は、本学の個性尊重の教育理念の下、全学学生を対象に「成城大学就業力育成・認定プログラム」を展開し、他者と協調しながらも自らを高め、集団を牽引する人材、自ら考え行動する人材を育成するものである。そして十分な実践的能力をもつこれらの人材については、大学として就業力の質保証を行う。
- 2. これまでの取組** 本学では、正課の全学共通教育科目としてキャリア形成論を提供するとともに、正課外プログラムとして1、2年次を対象にした本学独自のキャリアサポートプログラムMAPを展開中である(平成21年度選定「大学教育・学生支援推進事業」)。これらは、学生の履修、参加も多く、またMAPについては多くの専門家からも高い評価を得ている。しかしこれらはキャリア形成の理念的な側面あるいは、さまざまな角度から自分自身や将来を見つめる「気付き」を目指すもので、実践的な視点は希薄であった。
- 3. 本プログラムの特色** 今回実施するプログラムでは、MAPの運営によって培った経験を活かし、より実践的な視点を重視した展開を図っている。この成城大学就業力育成・認定プログラムの特徴として、次の5点を挙げるができる。

まず第1に時間軸をもった体系的なプログラムを構築する。入学から卒業までの学生の成長段階に合わせて、勤労観と職業観を醸成し、就業力を育成する。第2に理論と実践の融合である。理論とグループディスカッション、グループワークを組み込んだ演習を有機的に連携させるとともに、実践力を強化する科目も配置し、積極的に行動する人材の育成を図る。第3に多角的連携により重層的で多様な展開を図る。具体的には①正課(全学共通教育科目)と正課外プログラムとの連携、②企業・地域・卒業生との連携(企業や地域をモデルとする演習、地域住民・卒業生との連携)、③学園内各校との連携等を行う。第4は学生参加型から一歩進め、演習形式の学生提案型プログラムを組み込み、学生の主体的な取組、モチベーションの醸成を図る。最後が外部の識者を加えた評価委員会による客観的な評価システムの構築である。このプログラムを履修した学生に対して就業力ディプロマを授与し、成城大学として就業力の質保証をするとともに、さらに一定の成績基準を満たし、チャレンジ・プログラムで優秀な発表を行った学生には、この委員会の審査を経て、学長賞を授与する。また本プログラム自体も、毎年度この委員会の評価を受け、適宜見直しを行うことにより、社会の変化に合わせてプログラムの改善を図る。
- 4. 実施体制の整備** 本プログラムを統括する意思決定機関として「就業力推進委員会」を設置し、その下に「就業力育成支援室」を新たに設置する。支援室は、プログラムの実質的な管理・運営を行う中核的な組織であり、外部、学園内、学内各部署との連携にあたる。また、企業の第一線で活躍し、キャリア形成についても深い見識をもつ特別任用教員を採用し、実践力を高めるプログラムの立案・運営を担当させる。

以上のプログラムを構築、実施することにより、自ら働く意味を理解し、働くことの喜びを通して**未来社会に貢献する**人材の育成を目指す。